

板橋区農業委員会委員の推薦及び応募の状況

【推薦の状況】

| 受付 番号 | 被推薦者(推薦を受けた者) | | | | | | 推薦者名 | | |
|----------|---------------|----|----|----|--|--|-------------------------------------|---|--|
| | 氏名 | 職業 | 年齢 | 性別 | 経歴 | 農業経営の状況 | 推薦者名 | 業務内容 | 推薦理由 |
| 1 | 久保 秀一 | 農業 | 60 | 男 | 昭和57年3月 亜細 亜大学卒業 昭和57年4月 ゼッ ト株式会社 入社 昭和59年12月 退 職 昭和60年1月 (株) 日本能率協会総合 研究所 入社 平成25年3月 退職 平成25年4月 就農 平成30年4月 JA東 京あおば板橋地区 青壮年部副部長 平成30年4月 JA東 京あおば成増支部 副支部長 | 耕作面積 1,300㎡ 農業従事日数 年間 200日 農業経験 7年 経営類型 野菜 主な作付品目 ジャ ガイモ、大根・ニンジ ン | 東京あおば農業 協同組合 代表理事組合長 酒井 利博 | 地域の農業生産の振興 を旨として、組合員の相 互扶助の精神に基づ き、協同して組合員の事 業及び生活のために必 要な事業を行い、もって その経済状況を改善 し、かつ、社会的地位の 向上を図ることを目的と する。 主な事業：地域振興事 業、信用事業、共済事 業 | 氏は平成25年より就農しています が、現在に至るまで熱心かつ誠実に 農業に取り組み続けている一方で、 平成30年4月にJA東京あおば板橋 地区青壮年部副部長、JA東京あお ば成増支部副支部長、令和元年6月 には東京あおば農業協同組合副組 合長を其々務めるなど、地域農業へ の見識、同業者や地域住民からの 信頼はいずれも高く、今後の委員活 動に大きく寄与できると考え、ここに 推薦いたします。 |

板橋区農業委員会委員の推薦及び応募の状況

【推薦の状況】

| 受付 番号 | 被推薦者(推薦を受けた者) | | | | | | 推薦者名 | | |
|----------|---------------|-----------|----|----|--|---------|--------------------------|-------------------|---|
| | 氏名 | 職業 | 年齢 | 性別 | 経歴 | 農業経営の状況 | 推薦者名 | 業務内容 | 推薦理由 |
| 2 | 中妻 じょうた | 区議 会議員 | 51 | 男 | 平成8年3月 早稲 田大学第二文学部 卒業 平成23年4月 板橋 区議会議員 高島平七丁目町会 広報部長 | | 板橋区議会 民主クラブ おなだか 勝 | 議会活動を充実させる ため。 | 氏は区議会議員として3期12年務 め、農業委員会を所管する区民環 境委員会委員の他、都市建設委員 会委員長、監査委員などを歴任して おり、区行政に深い見識と理解を持 つ。代々農業を営んできた家系であ り、現在も親族の農地の耕作を行 い、実地に基づいた農業再生の検 討を進めている。今後の板橋区の農 業振興への貢献が大いに期待でき るため氏を推薦する。 |

板橋区農業委員会委員の推薦及び応募の状況

【推薦の状況】

| 受付 番号 | 被推薦者(推薦を受けた者) | | | | | | 推薦者名 | | |
|----------|---------------|-----------|----|----|--|---------|-----------------------------------|-----------------------|--|
| | 氏名 | 職業 | 年齢 | 性別 | 経歴 | 農業経営の状況 | 推薦者名 | 業務内容 | 推薦理由 |
| 3 | 大野 治彦 | 区議 会議員 | 59 | 男 | 平成19年4月～現 在 板橋区議会議 員 平成31年4月 板橋 消防団長 板橋区立上板橋第 二小学校PTA会長 板橋区立上板橋第 二中学校PTA会長 板橋区立上板橋第 二中学校同窓会会 長 茂呂長会青少年部 副部長 青少年健全育成桜 川地区委員会実行 委員 | | 板橋区議会 自由民主党議員 団 佐々木 としたか | 議会における活動を充 実させること。 | 区議会議員を4期16年勤め、板橋区 議会議長をはじめ、議会運営委員 会委員長、企画総務委員会委員 長、区民環境委員会委員、監査委 員などを歴任しており、区行政に深 い見識と理解を持つ。さらに、板橋 消防団団長として、区の防災行政に 多大なる貢献をしており、災害発生 時における農地の避難場所としての 活用など、農地の多面的な活用を踏 まえた農業委員会活動への貢献が 期待できる。 |